



発行人 福島県教職員組合
発行所 福島市上浜町10-38 電話024-522-6141
〔定価一部 20円〕
編集・責任者 瀬戸 禎子
e-mail: ftukyoso@poplar.ocn.ne.jp
https://www.f-t-u.or.jp
(この購読料は組合費に含まれています。)

教職員共済
ご住所の変更は
お早めにご連絡ください
福島県事業所
☎ 024-523-3011

学んで、交流して こころも体もリフレッシュ! ～栄養教職員部学習会～

1月31日、郡山教組会館において栄養教職員部学習会を開催しました。前半は、日教組栄養教職員部長の藏前隆広さんから、栄養教職員が置かれている現状について、最新情報を交えて情勢報告をしていただきました。

後半は、Kaisei紅茶館から講師をお招きして、アフタヌーンティーの講習を受けました。

少数職種のつながりの大切さを改めて感じました。また、忙しい中でも、美味しい紅茶のために時間をかけて淹れる「ゆとり」が、充実した仕事にもつながるのではないのでしょうか。



藏前部長から、日教組栄養教職員部で行っている文科省交渉では、栄養教職員の配置について、現在の食数の基準ではなく学級数に変更するよう求めていることが報告されました。また、4月から開始される予定の給食費無償化についてもお話がありました。藏前さんの資料を希望の方は、県教組へご連絡ください。



参加者からの感想

700食提供で栄養教職員が2人配置になれば、子どもたちにしてあげられることも増えるし、今までは1人で仕事を丸抱えでしたが、私たちも助け合って仕事ができます。実現してほしいです。



Kaisei紅茶館の加藤さん

子どもたちにおいしく楽しい給食の提供や充実した食育ができるよう、状況の改善を要望していくことが大切だと痛感した。一人一人の力は小さいが、みんなで声を上げていくことが大切なので、盛り上げていきたい。

地方交付税のつかいみちや国の動きについて詳しく知ることができてよかった。アフタヌーンティーの講習もよかった。



2026年県教組中央執行委員選挙が行われました!

福島県教職員組合役員選挙の結果

2026年2月6日投票 7日開票

中央執行委員長	酒井和紀(福島支部)
副中央執行委員長	穴戸明子(郡山支部)
書記長	松下和史(石川支部)
書記次長	鈴木真一(いわき支部)
日教組中央執行委員	菊池ゆかり(石川支部)
中央執行委員(女性部長)	大波陽子(伊達支部)
中央執行委員(青年部長)	八代耀佑(北会支部)
監査委員	明石栄子(福島支部)
監査委員	斎藤洋子(福島支部)
監査委員	半澤聡子(郡山支部)



第268回定期中央委員会開催

2月14日(土)キョウワグループ・テルサホールにおいて、第268回定期中央委員会を開催しました。

県内各支部から選出された中央委員から、質疑4本、討論15本が出され、活発な議論がなされました。特に討論では、3つの柱(①組織強化・拡大 ②長時間労働是正・多忙化解消 ③平和・人権・環境)に沿って、分会の過重労働・人員不足の実態、平和教育の重要性について等、情報共有や意思統一ができました。以下に討論内容の一部を掲載します。

①組織強化・拡大について

- 分会オルグや秋闘キャラバンでの声かけをきっかけに加入を進めることができた。青年同士の交流も進め、更なる加入につなげたい。
- 分会での世話活動を通して組合の意義やとりくみを伝えている。東白・西白・石川の三支部合同で青年部交流会を開催し、異動があっても仲間がいることの心強さを感じてもらえた。
- コロナ禍後、久々に支部退職者激励会を行った。これまでの思い出を語り合う中で、組合への感謝や仲間とのつながりの大切さが多く聞かれ、組合の意義を改めて感じる事ができた。

②長時間労働是正・多忙化解消について

- 教育予算額によって市町村間で格差が発生している。タブレットをはじめとした教材備品、市からの補助金などに顕著に表れている。その結果、保護者の経済的負担の増加につながっている。
- 部活動地域展開(移行)について、支部内でも進んでいない。指導員の配置は行われているが、種目によっては生徒のための大会運営のみならず、プロリーグの大会運営にも部活動顧問が駆り出されることもあり、部活動の見直しは大きな問題。

③平和・人権・環境について

- 政治が大きく動いている中、日本の軍事費は教育費の2倍。県教組のスローガン「教え子を再び戦場に送るな」が危ぶまれる。今こそ平和の大切さを子どもたちに伝えていく必要がある。様々な団体と協力し合いながら、この危機的状況を乗り越えていきましょう。

教職員・子ども・地域のための学校として、 業務の精選や心身のリフレッシュを!

C支部N中学校の取り組み

26年度の教育課程編成作業も各学校で最終段階に入っている時期ですね。

今回はC支部N中学校の取り組みについてお聞きしました。

N中学校では、校長先生のリーダーシップのもとでICTを活用したさまざまな業務改善のほか、教職員のスキルアップも大切にしている取り組みを進めています。



Googleドライブなど ICTの活用で業務の精選!

週案は、Googleドライブを活用し、全校一括で管理しています。他の学級・教科の授業の進度を把握できるメリットがあるそうです。

また、出張の終了報告にはGoogleチャットを活用することで、負担が軽減されています。

会議要項はロイロノートを活用し、できるだけペーパーレスで配布されています。会議のペーパーレス化は他の学校でも実践例が多くなってきましたね。

2期制となり、繁忙期が分散!

N中学校のある自治体では、数年前から全校で2期制が導入されました。通知票も2期制になっています。

3期制の場合、1学期の通知票作成と中体連などの大会が重なってしまいがちですが、2期制になったことで、余裕が生まれたとのこと。

また、高校入試に向けた調査書の作成時期と通知票の時期が重ならないことも、メリットのひとつとなっているようです。



心身ともにリフレッシュ! 「年休取得推進キャンペーン」

N中学校は固定時間割ではないため、部活動が無い日や定期テスト前などには、授業の組み方を工夫し、午後からの半休など「年休取得推進キャンペーン」として年休取得を推進しています。

県教委からの「働き方改革アクションプラン」にも、マネジメント体制の強化の中に「年次有給休暇の取得促進」が盛り込まれています。

体調不良の時に取得しがちな年休ですが、心身のリフレッシュのために年休を取得できるような全体の環境づくりが大切ですね。



PTAは事業を精選し、教職員と保護者の負担を軽減。PTA会報の校正、草刈りの際のトラック手配を保護者が担当。

地教委と連動した校務支援システムの活用で、調査書作成の時間短縮に加え、出席統計業務が軽減。

教科だけでなく、特別活動に重点をおいた校内研究を推進。学級経営の力をつけるなど、若手教員の育成にシフトした研究へ。

N中学校に寄せる地域の期待も大きく、「地域に開かれた学校」としての役割をどう果たしていくかも課題だとのことでした。校長先生へのインタビューの中で、「働き方改革を進めるためには、教職員の意識改革も必要ですね。」と話されており、一人ひとりの教職員の声を大切に尊重されている姿勢も印象的でした。



は学校で! Monster



みんなのひろば ～郡山 madoi no cafe～

郡山の内環状線沿いにある、住宅展示場をリノベーションしてOPENした地産地消のカフェ。

1月にお邪魔したときには、クレープ生地で白玉やいちご、あんこなどを包んだ「福つつみクレープ」をとっても美味しかったです。

ランチをと思っていましたが、木の温もりがとっても落ち着く空間で、お茶もスイーツもたくさんいただいて、つい長い長居してしまいました♪ (福島支部 Sさん)



全国のなかまと学んできました!

～日教組 第75次全国教研～

1月に、「日教組第75次全国教研」が三重県で開催され、福島県からは司会者3人、リポーター6人を含め、13人が参加しました。

16日(金)にオンラインで開催された全体集会では、「『出会えて、よかった』～すべてのいのちにかがやきを…～」と題して、ブルボンヌさん(女装パフォーマー・エッセイスト)と、福永宅司さん(元小学校教員・一人芝居演者)による記念講演が行われました。



ブルボンヌさん

学校は、子どもの家庭環境や国籍など、さまざまな「マイノリティ」と出会う場所であるという考えから、わたしたちは常に自分の人権意識をアップデートさせていくことが必要だとの話がありました。「『あなたにはこんなに良いところがあるんだよ。』という贈り物ができる場所が、学校なんです。」と、教育現場で奮闘するわたしたちへの励ましが印象的でした。



福永宅司さん

24日(土)・25日(日)は、三重県内の会場で分科会が行われました。このうち3つの分科会を紹介します。

〈環境・公害分科会〉

中学校3年生理科の授業実践を発表しました。原発の被害を受けた県として、子どもたちに正しい情報を学ばせ、同じ過ちを繰り返させない大切さを共有しました。実践に併せて、県教組放射線教育対策委員会として、双葉地区の現状や今後の見通しについても報告を行いました。



〈カリキュラムづくりと評価分科会〉

不登校傾向の子どもの居場所(別室登校)として特別支援学級が活用させられてしまう問題について発表しました。子どものニーズの把握や担任どうしの連携、学習権の保障、そもそも不登校を生み出す学校システムのあり方を問い直したいという問題を提起しました。



〈社会科分科会〉

小学校6年生の授業実践を発表しました。戦争の悲惨さや悲しさから、日本をはじめとした国々が大切にしてきた「民主主義」を知り、どうしたら戦争をなくせるか、民主主義国家を増やすにはどうすればよいかなどを、子どもと教師の対話を通して考えていきました。



このほか、「美術教育」、「インクルーシブ教育」、「両性の自立と平等をめざす教育」の分科会でもリポートを発表し、福島の実状を発信するとともに、全国からの参加者のみなさんからたくさんの意見を受け、学びを深めることができました。

次年度も、みなさんの実践報告や職場の実態をもとにして、ともに学んでいきたいと思います!